学校番号	1016

令和８年度　芸術科

教科	芸術	科目	書道Ⅰ	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	書道Ⅰ　（教芸）						
副教材等	自主教材プリント						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

小・中学校の国語科「書写」の主な目標は、文字を整えて書くことでした。高校の芸術科「書道」では、「書写」で学習したことがらを再確認しながら基礎・基本を身に付け、芸術としての書に踏み込んで学習します。多様で多彩な書の美に触れ、毛筆による書字表現を行いましょう。

書道Ⅰでは、「漢字仮名交じりの書」「漢字の書」「仮名の書」そして「篆刻」などを学びます。中国・日本の古典の臨書を通して様々な書体・書風を学び、創作に活かします。

授業の説明をしっかり聞いてその時間の目標を理解し、取り組んだ成果を提出します。

毛筆を使うことは難しいことです。難しいからこそ筆を動かして多く書いてください。授業中、書けば書くほど筆は皆さんの身体の一部になっていきます。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
・書の表現方法や形式、書の表現の多様性について、書の創造的活動を通して理解を深めている
・書の伝統に基づき、作品を効果的・創造的に表現するために必要な知識を身に付け、表している

【思考力、判断力、表現力等】
書のよさや美しさを感受し、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりしている

【学びに向かう力、人間性等】
書の伝統と文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:学びに向かう力、人間性等
観点の趣旨	・書の表現の方法や形式､書表現の多様性について、書の創造的活動を通して理解を深めている。 ・書の伝統に基づき､作品を効果的・創造的に表現するために必要な技能を身に付け、表している。 ・知識を確実に身に付けるための努力を行っている。	・書のよさや美しさを感受し、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えている。 ・知識を身に付けることの重要性を理解し、維持向上する方法を実践している。	・書の伝統と文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。 ・知識を活用することを実践し、これを学習面に活用している。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	学(c)
4・5・6月	書写から書道へ	用具・用材 【 小テスト 調査 第1回 】 ①平仮名筆順 ②片仮名筆順 ③平仮名字源 書写と書道の違い 基本的筆使い 漢字の成立と変遷	a:用具・用材や漢字に関する知識や扱い方を理解している。 基本的筆使いを身に付けている。 b:用具・用材の特性を生かした表現効果を理解している。 書写で学習したことを理解し、全体の構成を考えた表現の技能を身に付け表している。 c:漢字の書体の変遷に関心を持ち、意欲的、主体的に理解しようとしている。 基本的筆使いを身に付け、書写能力の向上に努めている。	ノート 提出作品	ノート 提出作品	観察 提出作品

	漢字の書	楷書・臨書 九成宮醴泉銘 孔子廟堂碑 雁塔聖教序 自書告身 牛橛造像記 楷書・創作 行書・臨書 集字聖教序(蘭亭叙)	a:臨書の意味や表現方法を理解している。 それぞれの古典の特徴を理解し、表現する技能を身に付けている。 b:古典の臨書・鑑賞を通して楷書の美とその表現方法を工夫している。(比較参照できるよう、行書の臨書も加える。) 自己の表現の狙いを達成するために、古典のもつ伝統的な美を感受し、表現を構想し工夫している。 c:古典の臨書・鑑賞を通して楷書の美とその技法に関心を持ち、表現技法を高めようとしている。 書写の感興や意図と字形や線質との関わりに関心を持ち、意欲的、主体的に書の美を味わおうとしている。	ノート 提出作品	ノート 提出作品	観察 提出作品
7・8・9・10.・11.月	仮名の書	【 小テスト第2回 】 ①平仮名筆順 ②片仮名筆順 ③平仮名字源 用具・用材 仮名の成立と種類 仮名の筆使い 平仮名 古筆臨書 蓬莱切又は高野切第三種 創作　百人一首から選んだものを半紙四行形式で行書きする	a:仮名の基本的な線質と用筆・運筆との関係を理解し、表している。 連綿の美しさと行書きについて理解している。 b:仮名の書の美とその技法を学び、基本的な様式ながら丁寧に作品作りを行っている。 c:仮名の発生から成立、現在の平仮名、片仮名について理解しようとしている。 表現技法の基礎・基本を身に付け、仮名の書写能力を向上しようとしている。	作品制作プリント 提出作品	作品制作プリント 提出作品	観察 提出作品

	漢字の書	行書･臨書 風信帖 争坐位文稿 篆書･臨書 泰山刻石 隷書･臨書 曹全碑	a: 臨書の意味や表現方法を理解している。 それぞれの古典の特徴を理解し、表現する技能を身に付けている。 b:古典の臨書・鑑賞を通して行書、篆書、隷書の美とその表現方法を工夫している。 自己の表現の狙いを達成するために、古典のもつ伝統的な美を感受し、表現を構想し工夫している。 c:古典の臨書･鑑賞を通して楷書の美とその技法に関心を持ち、表現技法を高めようとしている。 書写の感興や意図と字形や線質との関わりに関心を持ち、意欲的、主体的に書の美を味わおうとしている。	ノート 提出作品	ノート 提出作品	観察 提出作品

	漢字仮名交じりの書	【 小テスト第3回 】 ①平仮名筆順 ②片仮名筆順 ③平仮名字源 【 一つの言葉が多様な表現になって現れる 】 全員共通の言葉を作品制作 共通条件 大きく・太く書く 用紙の使い方 縦長・横長 国語表記の方向 縦書き・横書き 線質表現 太・細 潤・渇 構成(字配り)について 一行・二行・三行 用具・用材その他の工夫 毛筆の代用品の使用 利き手以外の手で書く イメージだけで書く 筆の持ち方を変えて書く など	a:漢字の書と仮名の書の基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身に付け表している。 b:運筆のリズム、線質、墨の濃淡、潤滑、筆圧、文字の大小、用紙の工夫、全体構成などを工夫して、課題の言葉のイメージを表現している。 c:漢字と仮名の調和と線質との関係について関心を持ち、表現を高めようとしている。 互いの作品を鑑賞し、そのよさや美しさを理解し、創造的に味わおうとしている。	作品制作プリント 提出作品 鑑賞レポート	作品制作プリント 提出作品 鑑賞レポート	観察 作品制作プリント 提出作品 鑑賞レポート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:学びに向かう力、人間性等